

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和2年度第4回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和2年9月30日（水）16:00～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：原理事長（議長）、桑野副理事長、石原理事、神坂理事、野中理事、久留監事、柳澤監事
[欠席：久保理事]
- 議 事

【議案審議】

1 議案第10号 令和3年度予算編成要領（案）について

<概要> 予算編成要領について事務局より説明を行い、原案どおり可決された。

（要領の内容）

- 第4期中期計画及び年度計画で計画する事業の達成に必要な予算を計上する。
- 経営基盤の安定化を図るため営業利益及び経常利益の確保に努める。
- 収益は実現可能な見通しを立て、費用は収益に見合うよう見積もる。
- 施設設備及び医療機器の購入について、必要性、時期、費用対効果等を十分に検討する。
- 新型コロナウイルス感染症の収支への影響額を適切に見積もる。

<主な意見等>

- コロナの影響については、今年度の実績として例年と比べて4～6月までが大きく落ち込み、現在は徐々に持ち直しつつあるが、次年度の予算については、例えば7～8月の病床稼働率で想定するなど、ある一定時点で想定せざるを得ないと考えている。福岡市と調整しながら作り上げていきたい。なお、最終的に予算は3月の理事会で諮ることとなるが、第4期中期計画と連動するので年内にはまとめていく。
- こども病院は、感染症病棟の患者数が減っており、それを踏まえ予算を組む予定である。
- 市民病院は、コロナの入院患者受け入れのための空床確保の状況次第となる。国の補助金についても、情報収集していきたい。
- 医療のデジタル化について、マイナンバーカードは個人情報の取扱いなど反対意見もあるようだが、保険証としての利用に向けた準備が進んでいる。将来的にすべての医療情報が入るようになれば、緊急事態の際も病歴等の情報が利用できることが期待される。
- 遠隔診療はオンライン化が進んでいるが、小児・周産期医療では利用は難しい。また、調剤はコロナ特例措置もあり、オンライン化が進んでいる。
- こども病院では、大学や成育医療センターと連携してAIの活用などを検討している。
- デジタル化が進んでいる病院は、東京の一部の病院以外はそこまでなく、まずは大学病院が先行し、その他の病院に広がっていくと考えている。
- システムは互換性が重要であるが、特に日本では病院間で電子カルテの互換性がないため、改善が期待される。

【報告事項】

1 福岡市評価結果について

<概要> 令和元年度業務実績及び第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績に関する福岡市の評価結果について、事務局より説明を行った。

<主な意見等>

- 令和元年度は市民病院が赤字となり収支が悪化していることから「経営基盤の強化と運営費負担金の縮減」「収益確保」の自己評価を「2」としていたが、コロナの取組で市の評価は「3」に上がった。ただ、実際のところコロナの影響は令和2年度が大きいことから、赤字について分析していくなど問題意識を持って取り組む。
- 令和元年度の市民病院看護師の離職率が4.2%と低い水準となった要因は、面談による育児休業復帰支援プログラムを導入し、家庭との両立ができるよう対応したこと等によるものである。
- 離職率等を想定して採用者数を決定するため、退職者数が想定より少なくなった分、人件費が増加した。一方で、人員が確保できていたことで、今回の急激なコロナの第1波に対して、院内で柔軟に対応することが可能となった側面もある。
- こども病院は小児に特化しており、正規職員の看護師の募集に対してはある程度受験者が集まるが、有期職員の中途採用での人材確保は課題である。
- 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績については、予測が立てにくいため、コロナの影響を見込んでいない。

2 第4期中期目標について

<概要> 福岡市が策定する第4期中期目標の現在の検討状況について、事務局より説明を行った。

<主な意見等>

- 特になし。

3 福岡市民病院の血管造影X線診断装置の購入について

<概要> 理事会の承認を得て理事長専決により契約を行った福岡市民病院の血管造影X線診断装置の購入について、事務局より説明を行った。

(契約内容)

- 契約相手方：株式会社フィリップス・ジャパン
- 契約装置名：血管造影X線診断撮影装置 Azurion7 B12/12
- 契約金額：123,970,000円(税込)(うち操作室等の改修工事費20,130,000円を含む)

<主な意見等>

- 現行の装置は約15年使用している。新たな機器は被ばく線量が大幅に低減されており、患者への負担が少なくなっている。
- フィリップスと随意契約を行っているが、機器の選定にあたっては各社の機能を比較して決定している。
- 他の病院の導入状況も確認して妥当な額で契約したとのことであるが、メンテナンス料は入っていない。初期費用だけでなく維持費を含んだコストで評価されたい。
- 購入を決めるにあたっては、何年で費用を回収できるか把握すべきである。修繕費等もかかると思うので注意されたい。

4 こども病院の医療情報システムの更新について

<概要> こども病院の医療情報システムの更新について、事務局より説明を行った。

(更新内容)

こども病院における電子カルテをはじめとする医療情報システムは、稼働から間もなく6年が経過し、令和3年10月から12月に各システムのサーバー、操作端末、プリンター機器

等のハードウェアの保守期限を迎えることから、当該システム更新に係る調達作業を実施するもの。

<主な意見等>

- こども病院の医療情報システムは、大学病院並みの重装備となっている。
- システムはリースではなく買い取りで、数年毎に更新が必要となる。

5 新型コロナウイルス感染症従事手当について

<概要> 新型コロナウイルス感染症従事手当について、事務局より説明を行った。

(内容等)

新型コロナウイルス感染症に対応する医師や看護師等に対し、日額 4,000 円を上限に特殊業務手当を創設し支給するもの。

<主な意見等>

- 特になし。